取組みと成果（令和6年度）

c　多様な体験の場の提供

・平日の放課後の学校というフィールドを活用し、自由に探究心や研究心を開花させられるような「多様な体験の場」を提供する放課後エデュテイメント事業をモデル校6校で実施した。

・夏休みに、文化施設をはじめとする様々な施設に無料または一部割引で入場できる等の特典が受けられる「こども文化パスポート」を3歳以上中学生以下のこどもに配布した。

＜実績＞

参加自治体数（施設数）	17自治体（78施設）
利用人数（利用率）	75,119人（48.9%）

d　小規模校特別転入学制度の実施

・自然環境に恵まれた郊外の小規模な小学校（小規模特認校）に、通学区域を越えて児童が転入学できる制度を実施し、特色ある教育活動（のびのびカリキュラム）を展開した。

＜令和6年度転入学児童数＞ 計55名

②アントレプレナーシップ教育による人材育成

a　未来の起業家を育成

・未来の起業家を育成するため、小中学生を対象に基本的な知識や創造力、問題解決能力を育む「アントレプレナーシップ教育（未来のスタートアップ育成事業）」を小学校2校、中学校1校で実践した。

＜アンケート結果＞「将来への選択肢が広がった」：93.0%　「起業してみたい」：73.1%

・「北九州の企業人による小学校応援団」では、講師派遣プロジェクト及び社会体験プロジェクトとして児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等、親学推進プロジェクトを実施した。

＜出前授業＞ 利用申込：56校　実施：316回

取組みと成果（令和6年度）

（3）こどもが好きなことに夢中になれる環境をつくることで、知的好奇心を高め、思考力を育てる

①コミュニケーション力や生きる力を身に付ける教育の推進

ミッション2（2）①に記載　P.17－18

②特色ある教育環境の整備（市立高校）

a 「イチリツ・プロジェクト」の実施

・探究的な学びを軸に人材育成を目指すための学校設定科目「イチリツ・プロジェクト」を実施した。北九州市立大学地域創生学群や福岡県中小企業家同友会と連携し、より深い学びにつながる在り方や、キャリア教育（インタビューシップ）を実施した。

・情報ビジネス科の募集を停止し、令和7年度入試から未来共創科に一本化した。

（4）社会に開かれた教育、学校外の学びや放課後活動の充実を進める

①コミュニケーション力や生きる力を身に付ける教育の推進

ミッション2（2）①に記載　P.17－18

②市民の学びを支える図書館の機能強化

a 学校図書館職員の配置

・学校教育における読書活動を推進するため、全中学校区及び特別支援学校に学校図書館職員を配置するとともに、スクールヘルパー（ブックヘルパー）と協力して、学校図書館における読書環境の充実を図った。

・新しいカリキュラムに応じた小学校6学年分のブックリストを完成させた。

b 中央図書館のリニューアル

・多世代の居場所づくりなど、多様なニーズに応え、安全・快適で誰もが利用しやすい図書館を目指すため、中央図書館の開館50周年に合わせ、中央図書館のエントランスのリニューアルに着手した。

c 北九州市立図書館基本計画の策定

・今後の図書館の在り方と目標達成のための具体的施策を示した「北九州市立図書館基本計画」を策定した。

全体評価と課題、今後の方向性

(1)こどもを「社会の構成員」として尊重し、こどもの意見を聴いて学校運営に活かす

①「こどもまんなか」の教育施策の推進

ミッション1(1)①に記載　P.12

(2)こどもも教職員も安心して挑戦し、失敗を楽しみ、成長の糧とできる環境を整える

①コミュニケーション力や生きる力を身に付ける教育の推進

a　北九州ステップアップメソッド(コグトレ)の推進

・振り返りシートの平均値は3.9（最高値は4.0)と高い結果となったため、令和7年度も、宮口学長との連携を継続し、コグトレの理論と実践に基づいた研修会の実施、定期的なコグトレ活用推進研究部会の開催を通して、研究部会員の横のつながりを強化するとともに、各学校の実態に応じた情報提供に繋げる。

b　学校部活動の振興

・令和6年度は、部活動の現状に「とても満足」、「おおむね満足」と回答した生徒の割合が84．3%と高い評価であったため、令和7年度も同様の事業を実施し、こどもたちの活動環境の整備や学習意欲の向上等を支援する。

c　みらい探究プロジェクトの開始

・年間を通してのプログラム実施が難しく、単発のプログラム実施になっていたことや学校の敷地内での活動プログラム実施であったために、プログラム内容に制限があったことが課題であった。
・令和7年度は「みらい探究プロジェクト」を立ち上げ、こどもたちが「なりたい自分」「好きなこと・得意なこと」「興味・関心をひきつけるもの」に出会い、これからの生き方について主体的に考える機会につながる体験活動を提供していく。

Mission2

全体評価と課題、今後の方向性

d　文化・歴史・自然の体験

・こどもまんなかの視点で体験活動のあり方を再整理し、「たいけん・まなび充実大作戦」としてパッケージ化して情報発信することにより、実体験を通じた学習の機会と選択肢の充実を図る。
・こども文化パスポートのオンライン化により、事業の大幅な効率化を実現した。また、参加自治体が3市町増加し、事業規模も拡大した。令和7年度は、こどもたちの体験活動のさらなる充実を図るため、公共交通機関との連携やPR強化等に取り組む。

e　小規模校特別転入学制度の推進

・令和7年度は57名の転入学生を決定し、制度利用者を増加させることができた。今後も丁寧な制度説明と効果的なプロモーションを行い、次年度に向けてさらなる利用促進を図る。

②アントレプレナーシップ教育による人材育成

a　未来の起業家を育成

・「アントレプレナーシップ教育（未来へのスタートアップ育成事業）」については、アンケート結果が高評価であり、事業の効果が十分に得られたため、引き続き、起業家精神やビジネスマインドを育む取組みを推進していく。
・「北九州の企業人による小学校応援団」と連携を図り、企業がもつ人材や経営のノウハウなどを生かし、出前授業や児童向けの体験学習、教職員を対象とした研修への講師派遣などに有効活用する。

（3）こどもが好きなことに夢中になれる環境をつくることで、知的好奇心を高め、思考力を育てる

①コミュニケーション力や生きる力を身に付ける教育の推進

ミッション2（2）①に記載　P.20－21

②特色ある教育環境の整備（市立高校）

a　特色ある教育環境の整備

・大学教授や学生インターン等との交流によるロールモデルとの出会いや、インタビューシップを通じた地元企業との関係強化による市立高校の知名度向上等の成果があったため、令和7年度においても「産・官・学・民」と連携・協働しながら、より多様な学びの機会を提供していく。

Mission2

(4)社会に開かれた教育、学校外の学びや放課後活動の充実を進める

①コミュニケーション力や生きる力を身に付ける教育の推進

ミッション2(2)①に記載　P.20－21

②市民の学びを支える図書館の機能強化

a　読書活動の推進

・全中学校区及び特別支援学校に学校図書館職員を配置し、学校図書館における読書環境の充実を図ることができた。
令和7年度も「北九州市子ども読書の日」を設定し、期間内における取組みを推進する。

b　中央図書館のリニューアル

・エントランスのレイアウト変更や椅子の配置、本の展示の工夫を行ったことで、
開放的で本や雑誌を気軽に手に取り、くつろげる空間となったため、
令和7年度もソファーやブックトラックの配置の工夫やエントランス横のトイレ改修、
入口付近の整理を行うなど、さらに本に親しみ、くつろげる空間とする。

中央図書館

c　北九州市立図書館基本計画の推進

・「北九州市立図書館基本計画」の計画期間は、令和7年度から令和22年度の16年の長いスパンとしているため、目指す姿の着実な実現に向けて、年度ごとの目標や具体的事業計画を示し、成果指標についても、年度ごとの目標を定め、点検・評価、取組みの改善に生かす。
・令和7年度は、市民の図書館に対するイメージ向上のため、図書館の新たな取組みを広く周知するなどPRに力を入れる。

参考指標

	R5（基準値）	R6（実績）	R10（目標）
「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答したこどもの割合	小学生：95.7% 中学生：94.4%	**小学生：96.2%** **中学生：94.9%**	小学生：95.0% 中学生：95.0%
「挑戦したい気持ちはあるが、失敗が怖い（恥ずかしい）ので挑戦したくない」と回答したこどもの割合	小学生：24.1% 中学生：23.1%	**※1**	小学生：15%以下 中学生：15%以下
「5年前のこどもと比較して、困難にくじけず対応する力が劣っている」と回答した教職員の割合	37.0%	**※1**	20%以下
「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」と回答した学校の割合	小学生：84.5% 中学生：98.2% （R4 年度）	**※2**	小学生：90% 中学生：100%
「学習を通じて、自分がしたいことが増えている」と回答したこどもの割合【市立高校】	77.8%	**73.6%**	80%
図書館の利用者満足度（※中学生以下） ①「読みたい本の有無」 ②「調べ物に役立つか」 ③「職員の知識・説明」	①93.2% ②93.4% ③95.7% （R4 年度）	**①92.2%** **②96.4%** **③99.2%**	各項目で 90%以上

※1：「こどもまんなか教育プラン」策定のために実施した、全校アンケートでの調査項目。
令和6年度はアンケートを未実施であり、今後アンケートを定期的に実施予定。
※2：「全国学力・学習状況調査」の調査項目から除外されたため、令和6年度はデータなし。

《ミッション3》 誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びを進める

KPI：授業が自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていると思うこどもの割合

＜R5実績値＞　小学生：81.7%　中学生：73.6%

	R6	R7	R8	R9	R10
目標	小学生：82.4% 中学生：74.9%	小学生：83.1% 中学生：76.2%	小学生：84.0% 中学生：80.0%	小学生：84.5% 中学生：80.0%	小学生：85.0% 中学生：80.0%
実績	小学生：83.1% 中学生：79.9%	－	－	－	－
評価 〔達成率〕	**順調** （小学生：100.8% 中学生：106.7%）	－	－	－	－

取組みと成果（令和6年度）

（1）確かな学力と健やかな体を育成する

①学力向上の推進

a　学びの転換

・参加型の教育課程講習会の開催、随時アップデートされる「指導のポイント」の配信等、管理職や教員が主体的に関わり、学校間での学び合いを促進した。

b　補充学習の実施

・児童生徒の主体的な学習習慣の定着等を図るため、放課後等を活用して補充学習を実施する「ひまわり教室」を小学校85校、中学校49校で実施した。

・授業力向上を目的に特定の教科等の研究の推進や、複数教科の研究、個別最適な補充学習システムの構築に向けた実践を行う「学びチャレンジリーディングスクール事業」を小学校19校、中学校8校で実施した。

c　学習状況等の分析

・児童生徒の学習状況や生活の実態を把握し、その調査結果を基に、学力向上に向けたよりきめ細かな分析と指導を行い、学校や家庭での学習や生活習慣の改善を図る「北九州学びと育ちアンケート」を実施した。

・これまでの学力調査の結果を分析し、その後の授業改善等につなげるためのワークショップ研修を実施するとともに、学力向上に向けた機運づくりの推進を図る「学力向上分析プロジェクト」を実施した。

②体力向上の推進

a　運動習慣の確立

・「北九っ子体力向上シート」等の活用と、学校の課題に応じた「1校1取組み」を進め、家庭・地域とも連携しながら、年間を通した運動習慣の確立を図った。

・新体力テストの結果を踏まえた授業改善による体力の向上、運動が苦手な児童生徒の自己肯定感やスポーツへの興味・関心の向上を図った。

＜全国平均値を上回った項目＞　体力合計点　小学校男子4種目／8種目　小学校女子5種目／8種目　　中学生男女4種目／9種目

Mission3

③健康の保持

a　歯と口の健康づくり

・「学校における歯と口の健康づくり推進計画（令和4年3月）」において、目標に対する施策の柱、具体的な取組み、それを評価するための指標を設定し、取組みを進めた。

＜主な取組み＞
- ・フッ化物洗口を全市立小学校で希望者を対象に実施。
- ・フッ化物塗布を特別支援学校小学部全学年で希望者を対象に実施。
- ・啓発チラシ・健口力アップ通信・ポスターの作成。
- ・福岡県歯科衛生士会による歯科保健指導を、希望する小学校2、5年生（67校）に実施。

b　肥満・痩身傾向児の対策

・「肥満・痩身傾向児の割合」については、成長曲線・肥満度曲線を用いた発育の評価を行い、成長状態についての受診を勧奨するとともに受診結果について市医師会の専門部会と連携し、受診率向上に向けての対策を検討した。

④学校給食の質の向上

a　おいしい給食大作戦

・市内の栄養士養成大学や料理人等で構成される「学校給食応援団」を発足。専門的な助言やメニューに関する提案に加え、児童との給食交流等、食育に関する取組みを実施した。

学校給食応援団

b　物価高騰対策

・給食に使用する食材の価格高騰が続く中、子育て世帯の負担軽減を図るため、給食食材の価格高騰分の経費について予算を計上し、引き続き給食費の保護者負担額を据え置いたまま、地場産食材や、児童生徒に人気の高い果物やデザート等、多様な食材を取り入れたバラエティ豊かで魅力ある給食を提供した。

c　学校給食献立レシピコンクールの開催

・児童・生徒の意見を生かした「バラエティ豊かな魅力のあるおいしい献立の充実」のため、地産地消をテーマに食べたい献立レシピを募集した。

＜応募数＞ 小学校の部：2,604品　中学校の部－スチコン部門：485品　みそ汁部門：770品

取組みと成果（令和6年度）

⑤小中一貫教育の推進

a　小中一貫教育リーディング校区での取組み

・小中一貫教育リーディング校区として、八幡東区の2中学校区が、9年間を通したカリキュラムを作成するなど、様々な取組みを実践し、組織の在り方や地域との連携の在り方に関する知見を深めることができた。
・小中一貫教育実践発表会を実施し、成果について北九州市内の小中学校に発信した。

b　活動プランの作成

・北九州市すべての小中学校で、9年間の活動プランを作成し、9年間を見通した目指すこども像の共有や、小学校と中学校の学年段階を4－3－2として捉えた教育活動について、検討した。

（2）不登校児童生徒の支援やインクルーシブ教育システムの実現、夜間中学の運営などを進める

①不登校・いじめ対策の強化

a　不登校対策

・全教職員で児童生徒にとって居心地のよい学校づくりを推進し、長期欠席の未然防止に努めた。特に不登校の児童生徒に対しては、学校への登校のみを目標とするのではなく、将来の「社会的自立」を目指し、多様な学びの提供、関係機関との連携等を担った。
・各課の取組みをCOCOLOプラン（令和5年3月　文部科学省）の各項目と結び付け、チーム学校としての組織づくり、魅力ある学校づくり、特別な支援を要する児童生徒への対応等、内容を絞って全課で共有した。
・COCOLOプランの中でも提唱されている「心の健康観察」を全校で導入し、児童生徒からの心の小さなSOSのサインを見逃さず、早期対応に結び付けられるようにした。
・小学校の部で週2回、中学校の部で週3回、「未来へのとびらオンライン授業」を開催し、登録している児童生徒の好転を目指した。
＜オンライン授業登録者数（好転者数）＞ 小学校：54人（53人）　中学校：194人（187人）
・不登校やいじめなどの問題を抱える児童・生徒の対応にあたる専門家を配置し、課題の解決に取り組んだ。
＜スクールソーシャルワーカーによる事例の解決・好転率＞ 55.5%

b　いじめ対策

・いじめの状況把握、分析及び調査研究、関係機関との連携等により、いじめの問題の未然防止、早期発見、早期対応を図った。

Version3

②特別支援教育の推進

a　特別支援教室の実施

・通常の学級に在籍する自閉症・情緒障害、発達障害などの障害のある児童生徒が通級指導教室設置校に通うことなく、在籍校において特別な指導を受けることができる「特別支援教室」を全ての小・中学校において実施した。

＜自校で通級による指導を受けている児童生徒数＞

	R6（R5）
児　童　数	527人（436人）
生　徒　数	210人（150人）
合　　計	737人（586人）

b　専門職の配置

・特別な支援を必要とする児童生徒に適切な指導・支援の充実を図るため、通常の学級や特別支援学級に特別支援教育学習支援員、特別支援教育介助員を配置した。

・特別支援学校と、対象児童が在籍する小学校に看護師を配置した。

・医療的ケア児の状況把握や看護師への助言や支援等を行い、医療的ケア児への支援体制の構築に繋げた。

＜医療的ケア学校コーディネーターの定期巡回及び学校訪問の回数＞

	R6（R5）
特別支援学校	34回（23回）
小　学　校	49回（44回）

c　就労支援の促進

・就労支援コーディネーターによる実習先・就労先の開拓に取り組んだ。

・「特別支援学校生徒雇用促進セミナー」と「清掃技能検定（上級検定）」を同日開催し、企業等へ障害者雇用についての理解啓発を図った。

＜就労支援コーディネーターの訪問企業数＞

	R6（R5）
訪問企業数	460社（469社）
新規訪問企業数	163社（167社）
実習受入企業数	35社（　32社）
就労受入企業数	14社（　15社）

Mission3

③学びの機会の確保

a　公立夜間中学校の開校

・義務教育を修了しないまま学齢期を経過した人や、不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した人、外国籍の人など、様々な背景を持つ生徒に幅広く就学機会を提供するため、令和6年4月に北九州市初の公立夜間中学校である「北九州市立ひまわり中学校」を開校した。

＜令和6年度入学者数＞ 1年生：10名　2年生：1名　3年生：2名

④経済的な課題への対応

a　奨学資金制度の運営

・教育の機会均等を図るため、経済的な理由により大学・高等学校などへの修学が困難な者に対して、修学上必要な学資金の一部貸し付けを行った。

＜貸付奨学生数＞

区分		R6（R5）
大　学	国公立	88人（ 90人）
	私　立	121人（141人）
高等専門学校		0人（　2人）
高　校	公　立	14人（ 11人）
	私　立	32人（ 31人）

b　就学援助制度の運営

・経済的な理由により、市立小中学校及び県立中学校への就学が困難と認められる児童生徒の保護者に、学用品費などの就学上必要な経費の一部援助を行った。

＜援助者数と援助率＞

区分	援助者数 R6（R5）	援助率 R6（R5）
小学校	6,661人（ 6,959人）	15.4%（15.7%）
中学校	4,210人（ 4,345人）	19.1%（19.6%）
合　計	10,871人（11,304人）	16.6%（17.0%）

Mission3

（3）人権、ジェンダー平等、多様性の理解を深め、他者を尊重する態度を養う

①生命（いのち）の安全教育の推進

ミッション1（2）①に記載　P.10

②人権教育の推進

ミッション1（2）②に記載　P.10

③道徳教育の推進

ミッション1（2）③に記載　P.10

（4）グローバルな視野で活躍するための資質・能力の育成と国際理解教育の推進を図る

①外国語教育の推進

a　北九州市型外国語教育の実施

・令和6年度より、「北九州市型外国語教育」を市内外国語教育リーディングスクール（小学校4校、中学校3校）において先行実施した。
・管理職および研究主任を対象とした研修や先行実施校での公開授業、北九州市型外国語教育のハンドブックの修正など、全ての教員が実践できるよう周知を図った。
・北九州市型外国教育実施を前に各校の学習到達状況を把握するために、英検ESGを全ての小学校で実施した。
・中学校の外国語科教員への指導と評価に生かすため、GTEC（ベネッセ）を中学校外国語教育リーディングスクール（対象：2年生）で実施するとともに、英検IBA（対象：1～3年生）を実施した。

ＡＬＴによる授業

②文理の枠を超えた学び・最先端の理工系教育の推進

a　スー1★GPの開催

・数学に関する「学校の中で味わえない体験の演出」を通して、中学生が数学への興味を深め、数学に強い次世代人材を育成するため、第2回スー1★GPを開催した。

＜参加者＞ 165名（57組）　（ R5：141名（47組））

③本市の特色を活かした教育活動の推進

a　SDGsの視点を踏まえた学習

・SDGs推進校を23校指定し、特色ある取組み及び実践研究を行うとともに、その成果を取りまとめて全市に発信し、SDGsの視点を踏まえた教育を拡大・充実した。

・学習指導要領に示されている「持続可能な社会を創る担い手」の育成やシビックプライドの醸成を図るため、SDGsの視点を踏まえた地域教材を活用し、教科等の学習を行った。

・小学校4年生の総合的な学習の時間の中で、北九州市の自然に直接触れたり、環境ミュージアム、エコタウン等の環境教育関連施設を活用したりする「SDGs環境アクティブ・ラーニング」を実施した。

（5）ICTを日常的に活用し、リアルとデジタルの効果的な融合を進める

①ICTを活用した教育環境の整備

a　教員の指導力向上

・1人1台端末の利活用を充実させることによって、教員がこどもたちの主体性を引き出す「授業観の転換」を図り、教員の授業力が向上することを目指した。

・端末活用推進校 － 小・中学校10校を指定
・ICTアドバイザー教員養成 － 小・中・特別支援学校教員35名を認定
・端末活用支援学校訪問 － 小・中学校へ約150件の訪問
・文部科学省リーディングDXスクール － 皿倉小・尾倉中が指定
・多様な研修機会の充実 － 延べ2,500名が参加